

## 第2節 「安心」のある教室をつくる参観授業

### 1 詩『峠』を通して自己を語るよろこび

学級開きでの感動が、4月の参観授業を充実させ、その授業そのものを楽しいものにしていく。特に、多くの保護者が参観している檜舞台が一人一人の生徒を大きく成長させる。その参観授業で取り上げる資料は、山形県出身の詩人・真壁 仁が著した『峠』という詩である。

#### 峠

真壁 仁

峠は決定をしいるところだ。

峠には訣別のためのあかるい憂愁がながれている。

峠路をのぼりつめたものは

のしかかってくる天碧に身をさらし  
やがてそれを背にする。

風景はそこで綴じあっているが

ひとつをうしなうことなしに

別個の風景にはいってゆけない。

大きな喪失にたえてのみ

あたらしい世界がひらける。

峠にたつとき

すぎ来しみちはなつかしく

ひらけくるみちはたのしい。

みちはこたえない。

みちはかぎりなくさそうばかりだ。

峠のうえの空はあこがれのようにあまい。

たとえ行手がきまっていても

ひとはそこで

ひとつの世界にわかれねばならぬ。

そのおもいをうずめるため

たびびとはゆっくり小便をしたり

摘みくさをしたり

たばこをくゆらしたりして

見えるかぎりの風景を眼におさめる。



私は教師になって初めて学級担任をしたときから、ずっとこの『峠』という詩で学級づくりを続けてきた。中学1年のスタート、2年のスタート、3年のスタート、その出会いの授業は、常に『峠』の詩について、一人一人の願いや思いを語り合う授業であった。

峠路を上りつめた。峠に立った。今まで歩いてきた道と、これから歩いていく道、その接点、それは過去と未来の接点である。中学1年生は、小学校の生活があって、中学校の生活が始まる小学校と中学校の接点である。

\*\*\*\*\*

### 【板書例】



\*\*\*\*\*

小学校のとき、1年の時、2年の時「こんな楽しいことがあった。こんなうれしいことがあった。こんな楽しいクラスだった。でも、こんなイヤな思いをしてきた」という様々な思いの中で新しい学年のスタートを切った生徒たちの中には、新しい学校、新しいクラスに対する期待と不安が溢れている。でも、もう小学校での日々、1年生での日々、2年生の日々（過去）は、一人一人の生徒には存在していない。「今」「ここ」（現在）しかない。「今」「ここ」で、今までの思いを噛みしめながら、どういう関係をつくるのか。

「昔（過去）はよかった。あのクラスはよかった」という思いを引きずるのではなく、「今」「ここ」（現在）で何ができるかということを『峠』という詩に絡めて、しっかりと語っていくのである。それはまさに、「今」「ここ」に確かな人間関係を築いていく授業である。

いっぱいの保護者が見つめる中で、一生懸命自分の言葉で、『峠』という詩に重ねて、その思いを発言している生徒の表情、そこには顔を赤らめ、ドキドキしながら発表する生徒の表情がある。

そして、その生徒にそっくりの母親が、後ろの方で、顔を真っ赤にしている場面に幾度となく会ってきた。その母親が、その生徒の母親であることはすぐにわかる。親子というものは本当に似ているということを実感するひとときである。

発表し終わった瞬間、発言した生徒は、座って顔がほっこらして、不安げな表情をのぞかせながらも、うれしそうな顔になる。後ろの方で、母親も安心したような、「よかった」という顔になる。そのとき、その発言に他の生徒が意見をつなげる。

「今、Aさんがこう言ってくれたけど…」と言って、別の生徒が意見をつなげた時、さっきまで顔を真っ赤にしていた母親が、ものすごく幸せそうな顔になる。

「ああ、うちの息子、娘は新しいクラスで、新しい仲間とこんなに豊かにつながっているのか」という穏やかな思いが表情に表れる。子どもが豊かな人間関係を築こうとしている姿に出会うことは、親にとってたまらなくうれしいことである。

私には、中学生と小学生の娘がいる。参観授業にはできる限り足を運び、娘のクラスの授業を見さ

せてもらうが、そのとき自分の娘しか見ていない自分に気づく。よその子どもも見ているが、自分の子どもが一番気になる。その自分の子どもの背中が小さくなってるんじゃなくて、しっかりと胸を張り、その思いを表現し、その発言にいろんな意見がつながった時、「娘はクラスで生き生きと頑張っていける」と思う。娘の幸せは、私（親）の幸せであり、私（親）の「よろこび」である。

私は、生徒一人一人が自らを生き生きと語り、その瞬間を楽しんでいくことにより、参観しているすべての保護者が、その子どもの姿から思いっきり自らの幸せを実感する参観授業を創造していくと思う。

## 2 参観授業とその感動を綴った生活ノート

私は、これまで16回学級担任をさせてもらっている。1回目の学級は、藍住中学校2年7組であった。そして、16回目の学級は、板野中学校3年A組であったが、どの学級においても学級開きの授業は、詩『峠』について「今」「ここ」を生きる自己をみつめ、語り合い、生き方を内省していく授業であった。

特に板野中学校において、中学1年から3年まで引き続けて担任をした6年間は、すべて4月の参観授業として取り組まれ、それ以後の教育活動への指針を示すものとなっている。

ここではまず、1年生で実施した詩『峠』の道徳学習について綴られた生活ノートを掲載する。  
【今日、初めての参観授業でした。『峠』という詩と中学校入学した僕たちの気持ちを重ね、みんなとのどのような関係やつながりをつくっていくのかを、みんなで語り合っていく授業でした。しかし、僕はいっぱいのお母さんたちに囲まれて、なかなか手を挙げることができませんでした。せっかく友だちや先生が言ってくれているのに、発表しようと頭の中ではわかっているのに、手を挙げる勇気がありました。

けれど、今日は手が挙がりました。さっきまで勇気がなかったのにと思いました。それは自分に勝ったから手が挙がったんだと思います。勇気を出してみんなに思いを伝えられたら、とてもうれしいし、友だちもわかってくれます。毎日、こういうふうに頑張っていけば、知らない間に成長していくんだと思いました。

前まではお母さんは参観授業に来ると、○○君は4回、△△君は3回、あんたは2回、○○君や△△君に負けているということが何度かありました。僕は発表の回数や関係ない、自分の思いが友だちや先生に伝わったらそれでいいと思っています。でも、お母さんは変わりました。みんなの発言を聞いて、先生の話を聞いてから、お母さんは、「友だち大切にせなあかんよ。それと、今日のみんなの発表よかつたなあ」って言ってくれました。】

この生徒の生活ノートに象徴されるように、4月の学級開きに取り組まれる詩『峠』の道徳学習は、生徒にとっても保護者にとっても感動的な授業となる。

参観授業で取り組まれてきた詩『峠』の道徳学習の記録は、毎年大切にまとめられてきたが、本冊子には、この道徳学習で自己をみつめ、自己の内面を語り合うことが、それ以後の本音を語り合い、自己の生き方を追究する授業実践の土台となった3年E組（1996年度）の授業記録を掲載する。

## 【授業記録】第3学年第1回 P T A 参観授業

主　題 「中学最終学年のスタートラインに立って」

資　料　詩『峠』(真壁 仁)

1996年4月21日(日)第1校時

徳島県 板野中学校 3年E組

授業者 森 口 健 司

### 1 クラスとは人間関係が機能しているかが問われるもの

T1 : みんなはこうして3年E組という集団の中で出会うことができたけど、クラスというのは人間関係がほんまに機能しているかどうかが問われるものだと思うんです。これは大人になってもそうだけど、人間と人間のつながりである人間の関係がきちんと機能していたら、本当にその集団で生活していくことは楽しいし、一人一人の中に生きる希望や生き抜く力がわいてくる。でも信頼で結ばれた人間関係が機能しなくなると、お互いがお互いのことを陰でこそ悪口言ったり、だれかを疎外したり、だれかをいじめたりするような状況になってしまう。そうなると人間は、いじめる側もいじめられる側も人間としての輝きやよろこびを失っていくし、クラス全体が嫌で嫌でたまらないものになっていく。14歳、15歳というこれからの中長い人生の中で最も多感な時期に出会えた仲間と、人間としてのつながりを大切にし、共感しながら、人間として成長していく1年間にしていきたいと思うんです。ここに出会った32人が本当に会えてよかったと言える、そんな感動の涙が流せるような営みを築き上げたいと思うんです。

T2 : 今、みんなは中学2年という学年から中学最終学年である中学3年という歩みをこの新しい仲間と始めたところです。確かにみんなが中学に入学してきたときも、小学校から中学校への接点に立ったということでこの『峠』の詩についてみんなと思いを語り合ったし、中学2年のスタートでもこの詩に寄せて一人一人のあり方を見つめる授業をつくってきた。みんなと取り組む『峠』の授業もこれが最後です。今年度みんなと3年E組というクラスで出会って、ちょうど今日で2週間になるけど、4月8日のクラス開きの日からの様々な思いを噛みしめながら、中学2年と中学3年の接点であり、その両方の風景が見える「峠」に、このクラスの仲間といっしょに立った思いや願いを語り合いたい。今まさに自分のあり方や生き方を自問自答していくこれからの時間にしていきたい。今、「峠」に立った思いを語っていこう。

YM(男)中学2年の時は、どうして勉強が大事なのかということが全然わかってなかつたんよ。ほなけど、中学3年になって勉強の大切さがものすごくわかってきて、それで頑張って勉強していったら、自由な自分の時間が増えるってわかつてきつたんよ。やっぱり中学校最後やけん、ほんま一生懸命生きなんだら後悔して、また落ちこぼれになっていくけん、勉強やってそれなりに、共に声を掛け合ってできると思うし、今ほんままで生活ノート出せてないんやけど、ちゃんとやつていけるようにしていきたいと思う。

T3 : 今ほんまに今の時点で思うこと、今3年生の関係ができつつあるけど、今までの自分を語っていくことを通して、みんなの中に共に中学3年という「峠」をこの仲間と登り詰めていくという思いを噛みしめたいと思う。仲間の思いをしっかりと目で聞こう。仲間の方に顔と身体を向けてしっかりと心に刻みながら聞いていこう。

AK(男)やっぱり2年までの生活は今でも直りきってないけど、だらけとる部分が多くて、直そうと思っても、自分のきたない心というか、怠ける心が強くて勉強せんと外に遊びに行ったりゲームしそうたんよ。でも、今はほんなことせんと、勉強を頑張りたいと思うとんやけど。今年最後ということで、何に対しても中学校でやること最後になつていいでえ。それを確実にやっていきたい。毎日の積み重ねが大事でえ。勉強やって一日だけ頑張ったんでは力がついていかんし、毎日やっていくことができてこそ力がついていくものやと思うし、生活ノートもちゃんと出さないかんと思うけんな、みんなで声をかけおうて頑張っていこうと思う。

## 2 今まで親が我慢してくれたぶん、頑張らなあかんと思う

ST(男)僕も3年生になってからな、将来やりたい職業とかあるけんな、そのために勉強始めたんよ。勉強始めたけん、生活ノートを書く時間がなかったんやけど、自分をほんまに成長させていくことが大事やし、勉強だけ「せないかん、せないかん」と思っても続かんしな、全然生活ノートを書いていなかつたら、生活ノートを通して自分の生活を見つめることもできんと思うし、自分の生活を見つめて自分のことを知ることは大事なことやしな、勉強もするけど生活ノートも今までのように出していきたいと思う。ほんで、やっぱり話が変わるけど、僕は親からあんまり勉強せえって言われたことがないんよ。テストで悪い点をとっても怒られんけど、先生が子どもは親の期待を裏切るんが仕事じやって言われたとき、グサッとしたというか、やっぱり僕の親って僕が遊びほうけどのを見てごっついつらいと思うけど、声に出て言わんというか、僕が気づくまで待ってくれとったんよ。今になって気づくんって遅いと思うけど、今まで親が我慢してくれたぶん、頑張らなあかんと思うんよ。

T4：仲間の思いを聞いて、いろいろ思うことがあると思う。そういうものをつなぎ合って、みんなの心が通い合う時間にしたいと思う。どうだろうか。

NO(女)3年になってな、一番なんか短時間で変わったなと思うんよ。2年生の時はな、ごっつい自分が嫌だつたんよ。一生懸命生きていこうと思うようになったんだよ。2年生のときやってきたことが、今は楽しいって思うようになったというか、そういう感じなんよ。

YM(男)ほんま変わんりょると思うんよ。「あゆみ」(学習の記録)を出すようになったんよ。「あゆみ」を書いている自分が好きなんよ。出すときのうれしさって言うか、ほのがめちゃめちゃうれしいって言うか、自分が好きって言うか、部活動に対しても全然気持ちが変わってきたんだよ。2年の時は、部活動のみんなのことや考えてなかつたけど、3年生になってみんなが総体に向けて頑張っているのを見て、一人でも抜けたら野球部が勝つたとしても絶対でないでえ。だから部活動も頑張っているんよ。何かそんな自分が好きなんよ。

## 3 一人一人が語れる集団にしていかないと一人一人の人間としての本当の成長はない

T5：今、聞いて心の中にグッときたことがあるだろう。そんな感じることを返せる集団であるかどうか、最初に言ったけど、ほんま人間関係なんです。大人になつてもそうなんです。人間関係で喜んで、人間関係で苦しんで、人間関係でつぶされて、人間関係でイキイキする。人生はその繰り返しなんです。すぐだれかを責めて、自分を正当化する関係もあるだろうし、ほんまにその子のよろこびを自分の幸せにしていく関係もあるだろうし、まだあいつより上じや、あいつよりまじゅうって思つていく中で、表面的には声をかけても心が全然通わない関係もあるだろうし、心の中では嫌やなあと思うこともあるだろう。そんなお互いの中に潜んでいる意識を少しずつでもいい、語り合わなんだら、心をつなぎ合わなんだら、そして感じたことを言わなんだら、感じたことが言える集団にしていかなんだら、一人一人の人間としての本当の成長はないと思う。今、何人かの人が語ってくれたけど、それを聞いて私はこう感じる。私はこういうふうに思う。そういうものが素直に語り合えるつながりが、人間としての熱いものを生んでいく。全体学習をずっとやってきたけど、あの授業の中で熱いものがこみ上げてきたのは、みんながひたむきであったから、語りたい自分が生まれてきて、その思いをつないでくれる仲間がいたからなんです。みんなでそういう学級にしていきたい。この授業もその一つなんです。どの授業もそうやけど、わからんことがわからんと言えて、今まで知らんかったことを知ることができる、そんな関係をみんなでつくついていきたい。この授業もそんな関係をつくっていくための授業なんです。私の中にはこんな思いがある、こんなことを感じている、そんなことを出し合つていこう。

KH(男)僕もな、この頃変わったなって感じるんよ。2年の時は、学年の始め、生活ノートを10日ぐらい出せよったんだよ。でも嫌々出っしょるという感じだったんよ。この頃家に帰つたら、御飯食べた後、すぐに生活ノ

ートを書きよんよ。生活ノートを書きよるときな、今日こんなことがあったなあって思えて、先生も言ふるけど、自問自答ができるんよ。3年生になってから1回もとぎれてないけんな、頑張っていきたいんよ。ほれと、部活のことでな、最近AK君が来てくれるようになつたんよ。陸上部はようけおることはおるんじやけんどな、来んやつやっておるんよ。陸上部は個人の競技やけどな、陸上部としてつながっていけるようになりたい。

NN(女)私な、生活ノートを書くのに30分から1時間ぐらいかかるんよ。ほなけん勉強はええかって思いよったんよ。ほなけど3年になってな、ちょっとでもしようと思つたら変わってきたと思うんよ。みんな自分が好きになれてきよるって言うけど、私はやらないかんことはやれるようになってきよるけど、自分の嫌なところはいっぱいあるんよ。ちょっとしたことで好きになることもあるけど、ちょっとしたことで自分を嫌いになることもあるでえ…。私はな、すぐに笑つてごまかすところがあるんよ。『笑つて許してもらえる日本人』って言われるで…。そういうところが嫌なんよ。自分の意志表示がはっきりできんとか、そういう自分を変えたいと思うんやけど、うん、変わりたい。

#### 4 昨日の「あゆみ」は嘘を書いて出した

AK(男)陸上キライなんよ。それでも自覚が持てたっていうか、3年生になってからな、部活動が終わるんが遅いんよ。それでも、もう3年生しかできんし、一日一日を大切にせないかんと思うて練習に行きよんやけど、いきなりし出したけん身体がついていかんのよ。昨日やって休んでしもうたんやけどな。自分に厳しくせなあかんと思うたんよ。YM君が「あゆみ」(学習の記録)出すんがうれしいって言よつたでえ…。わいは出するんが嫌なんよ。今日の「あゆみ」はな、ほんまのこと書いたけんええけどな、昨日の「あゆみ」は嘘を書いて出したんよ。出すときにな、自分が腹立つしな、どうして頑張れんのかなって思うんよ。この時間で変われたらいいなあって思う。

T6：あきらめない関係、こいつはこんなやつなんや、こいつはしようがないんや、部活動にしても何にしても、こいつはこんなやつなんやって切つてしまふたら、お互いの人間としてのほんまの成長はなくなつていく。昨日学習会についてのアンケートをとつたけど、学習会についても問われていることだと思う。自分たちだけが頑張つたらいいって納得しない。学習会に意欲的に参加している子、なかなか参加できない子、学習会という言葉を聞いただけで心が重くなる子、お互いの思いやしんどさが想像でき、そこにある頑張り切れぬ思い、揺れる思い、そういうものを仕方がないと言つて絶対に切らない。出会えた仲間として、その存在をかけがえのないものとして、支えつながつてきたいと思う。友だち、仲間っていうのは、あの子はいつもニコニコしている表面的なものだけではない、その裏にある思いが想像できる関係、あの子はいつもきちつとできている表面だけでなく、そこまで頑張れている心の揺れを想像できる関係、ちゃんとぼらんに見えるその人の目に見える部分だけでなく、その中にある深い思いが想像できる関係があつてこそ、人間として共感できてつながつていくことができる人間関係が成立していくと思う。この授業も、まさしく人間としてつながり、互いの絆を深め、一人一人がめいっぱいの頑張りをして共感と連帶の絆をつくつていくための授業なんです。眞の連帶を求めて、私の中にこの4月、こんな不安がある、こんな夢があるという願いや思い語り合つていこう。

YO(女)私はな、生活ノートはな、最初の4日間しか出せんのよ。決まって4日間なんよ。今年こそ続けて出すぞって思うたんやけど4日間しかもたんのよ。1年の時、三日坊主って言われたけど4日もつたんやからええでえと思うたんやけど、書く内容もテレビ見たとか書いて、何を書いていいかわからんかったんよ。自分を見つめること、そんなことなかつたんよ。「あゆみ」とかな前は4行くらい書いていたけどな、最近は1行なんよ、今日部活を行つたとかな、それぐらいやけんな、何のための「あゆみ」なんかえって思ったんよ。昨日、成績表が返つてきて、だいぶ番数も落ちとつてこれはあかんがあつて思うたけど、自分にあせりがな

いし、勉強せなあかんなあって思うけど、家に帰っても勉強しようっていう気にならんのよ。昨日やって、こたつの中で寝てしまつて、今日起きたら、こたつの中だったんよ。みんな頑張って勉強しているのに、一人極楽しとつたらあかんなあって思つて、考え直さないかんなって思つたんよ。昨日も三木先生に呼ばれて説教くらつたんやけど、ほんまあかんなあって思つたんよ。テニス部の子ができることをなかなかできんけん、せなあかんことが全然守れんで、テニス部っていう枠から一人抜けとつて、部活も行つたり行かんかつたりしとつて、今年最後やのにこんなんでいけるんかえって思つたんよ。ちょっと気合い入れて考えようと思つました。

T7：いつしょやって思う子もいるだろうし、似ているなあと思う子もいるだろう。そんな思いを語り合つて熱い熱い時間にしていきたい。どうだろう。

MI(女)私も最初は新鮮な気持ちがあつて、生活ノートを5日ぐらい書いて頑張つていたけど、5日目からは毎日学校が終わつたら、生徒会に行って家に帰つて御飯を食べてお風呂に入つて寝るつて感じで、毎日同じで、テレビを見てもいつも同じ料理番組で、教育テレビは映りが悪いん見んけん、ちゃんと映るのは1チャンネルだけやけん、他に見るんは土曜日の吉本新喜劇で、昨日やってムツゴロウさん見て…。学校でしたことはほとんど覚えてなくて、覚えとることと言えば、学校の帰りに友だちと話したことぐらいで、あと、生活ノートには書いていることで、まだ出してないけど、1年生の子が、小学校では学習会を行つていたけど、中学校になつても学習会は行かなあかんのって聞いてきたんよ。ほんでな、最初な、質問の意味がようわからんかったんよ。塾とかで休んだらあかんのかつてことなんかなあって思つたんやけど、ちょっと違うみたいで、うまいこと答えられんかったんよ。家に帰つてそのこと生活ノートに書いたんやけど、うま一にまとまらんかつて出してないんやけど…。それと、進路のことも考えよるんやけど、今日指している進路は自分なりに決めとるところがあるんやけど、家にお金があったら進みたい進路は違うんよ。この前の進路希望調査に出したところと違うんよ。実際にはこの前希望したところに行くと思うけど…。頑張りたいと思う。

T8：みんないろんな思いを噛みしめながら中学3年に向けての峠を登り詰めてきた。これまで歩いてきた中学2年の「峠」は、その後に開けてくる中学3年という風景は決まつていたけど、これからこの3年E組の仲間と登り詰めていき、中学最後の「峠」に立つたその後に開ける風景は、まだ全然見えてこない。夢はあるけど、目的はあるけど、そこにいろんな問題が生じてくる。成績のこともあるだろうし、経済的なこともあるだろうし、様々な不安が心の中をよぎり、そのことを考えると苦しくなり心が重くなる。だからこそ、学校での人間関係が、一人一人がイキイキするキラキラする関係になつていかんだら、最も生命の輝く時をみんなで生きていく値打ちがない。学校へ來るのに暗い顔で「行ってきます」って、家を出るのか、学校へ來るのがうれしくてうれしくて仕方がないという気持ちを高ぶらせながら、大きな声で「行ってきます」と家をあとにするのか。昨日も話したけど、学校に來るのもスキップしながら家を出たら、そんなみんなの背中を見送つたら、そんなみんなの表情にふれたら、みんなの家族も樂しくなるし明るくなる。14歳、15歳という一番多感な、一番感動するときに出会えた仲間として、みんながどうつながるかを大切にしたい。そして、そのことを考えると不安な気持ちでつぶされそうになることも、中学3年という「峠」を一人一人の思いを語りながら、つながつていつて一人一人がイキイキするクラスの関係になつていきたい。その中で自分のありようを見つめていきたいと思う。仲間の思いにつなげて、みんなの思い語つてほしい。

## 5 人間って人間関係ですべて決まると思う

ST(男)言うこと忘れたけん、また同じこと言うけどな、やっぱり子どもの仕事っていうのは、親の期待を裏切ることと思うんよ。子どもって親の思いどおり育ちませんよね？（参観している親に聞く）僕も今まで親の期待裏切り続けてきたんよ。だから、親がいい方に思いを寄せてくれているのをわかつてるので、それを行動に移せんかった自分がつたんよ。進路希望調査とかでも、親は本人の意志に任せますとか、本人しだ

いですとか書くんやけど、僕は始めにそれ書かれたとき、ごついショックだったというか、見捨てられると思ったんよ。だけど、勉強していくうちにこれが本当の親の優しさとわかったんよ。なんでかっていうたら、やっぱり親からしたら、こういう職業についてほしいというのがあると思うよ。だけど、みんなの親もそうと思うけど、僕の親は僕の夢を尊重してくれたっていうか、自分の思いどおりに、何ていうたらいいかわからんけど、自分にしてほしい職業とか僕に言うことないし、僕に好きなことせえって言ってくれるし、本当にそう書いてくれたってわかったら、ほんまの優しさだとわかったけど、それは親が子に対する最大の厳しさだとわかったんよ。親が子に勉強しろって言うのは、精神的につらいと思うけど、それは優しさと思うよ。僕の親だけではないけど、本人に任せることないか、本人が本当に自分の夢に気づいて頑張るって言うまで、僕の親の場合待つってくれたんよ。一応3年になって遅いけど、やっと親の思いに気づけたんよ。だから勉強もし始めたし、YM君も言よったけど、「あゆみ」書くのも楽しいし、「あゆみ」に国語何十分って書くんが、ほんまにやってるから楽しいんよ。僕以外にも夢に向かって努力しよる子おると思うよ。お互いを認め合うっていうか、学校生活の中でも頑張る子のじやまをしないというか、先生も言つてたように人間って人間関係すべて決まると思うよ。勉強せんでつける職業だったら、勉強しなくてもいいし、その仕事にあった専門のこと勉強したらいいと思うけど、人のじやまするというか、5教科の勉強をせんとさぼって適當にしようっていうのは、冷たい言い方で悪いけど、僕はかんまんと思う。ほんまはいかんのかもしれんけど、こんな言い方しかできんのやけど、だけど他の人のじやまをせんというか、人のことも考えるっていうことが大事だと思う。今までだったら一人やかましい子がおって、みんなの迷惑になつたら、そいつはそんなんじやつて今まで切ってきたわけで、そういうのはあかんと思うよ。学校生活も小さな社会っていうか、違う意味で見知らぬ人ばかりが集まつとうわけで、そういう社会の中で自分だけよかつたらいいっていうのは、やっぱり人のことも考えるっていうか、15歳になってる人もいると思うけど、中3になったら、親についていくんやけど、やっぱり自立していかなあかんというか、そろそろ自分の思いがしっかりしていかなあかんと思うけんな、自分はこういう夢をもつてこういう勉強しよんじやとか、こういう努力しようっていうのが言えるようにならなあかんと思う。僕の職業は、ほんまに勉強やりまくらなあかん職業だから、親に将来何になるんて聞かれた時に、本当はこんな職業につきたいんじやつて言うのがあったんやけど、そんなこと言うたら笑われてしまうようなことしかやってなかつたから、自分の努力と夢が見合つてなかつたら、そういうの言うのがはずかしいと思う。努力しよつたらこういう職業につきたいって胸張って言えると思う。結局僕が言いたいのは、3年のこの学級っていうのは3年間で一番大事なクラスだと思うよ。ほんまにつながらなあかんっていうか、自分のことも考えなあかんけど、人のことも考えるのが大事やし、授業中もうるさくする時は、うるさくして、先生が大事なことを言つてゐるときは、それを一生懸命聞いてゐる子もいると思うから、そういうところのけじめはつけないかんと思うし、先生が言つてゐるときにうるさくして、先生の言つてゐることを切つてしまふのは、先生も一人の人間やし、人権無視になると思う。そういう細かいところをいろいろ考えていかな楽しい学校はできないと思う。

## 6 自分の夢に向かって、夢を夢のままで終わせんように、自分なりに一生懸命頑張っていきたい

KH(男)僕には将来の夢があるんよ。その夢っていうのは、小学校か中学校の先生になることなんよ。それはわかってるんやけど、僕は小学校5年ぐらいの時から、小学校の先生になりたいって言つてたけど、小学校か中学校の先生になりたいって思ったんはどうちでもいいけど、とにかく学校の先生になりたいと思ったから、つい最近勉強し始めたんやけど、生活ノートを書いてたら、僕もST君といつしよで、生活ノートを書いたから、勉強は明日にしようっていうだらしない心が動いてしまうよ。そんなんだつたら先生になれんと思うよ。もしなれたとしても生徒に語つていけるような先生になれんと思うよ。だからもっと自分の夢に向かって、自分のもつとる夢を夢のままで終わせんように、自分なりに一生懸命頑張っていきたい。夢を

現実にさせるためには今が大切だと思う。今の中学校3年の生活を悔いのないようにしていきたい。

T9：あとでつなげてください。素直に言える関係、そんな人間のつながりや人間関係。例えば、私はこの道に進みたい、こういう人生を生きたい、こういう職業につきたい、そのためにはこの高校に行きたい、こうした夢が素直に言える、ちゃかしがない、だからいっしょに頑張ろう、だから今をきっちりしていこうって言える。終わったことをぐちぐち思うんじゃない、先のことにおどおどするのじゃなく、いっしょに頑張ろうと共感する、連帯する集団をつくりたい。素直であるということ、素直に言える、素直に間違ったことは間違ってると言える、「今日の〇〇君おかしいよ」「今日のことよかったですよ」って素直に言える関係、そしたら心軽い。心浮く。これ言うたら陰で何を言われるかわからん。そんなことにおびえていく関係が、そういう人間関係が人間不信になる。そうでなくて、素直に語れ、本当に信じ支え合う、そういうものをつくりたい。今語ってくれたことに思いを返していこう。

MI(女)いろんなこと言うけど、NOさんもそうだけど私も先生になりたいんよ。そのことでこのクラスで、何人いるか聞いてもいいん?

T10：学校の先生っていういろいろ厳しいものがあるよ。他にもいろんな仕事があるだろう。

MI(女)けっこう多いな…、このクラス…。さっき言った進路のことやけど、私の家族、みんながんこなんよ。親もそうやし、兄ちゃんもそうやし、嫁さんもじいちゃんも、私もそうやけど、私には優柔不断なところもあるんだけど、そこまで（他の家族ほど）がんこじゃないと思うよ。うちはくの兄ちゃんはぱっと決めるけんがんこなんよ。2年生の半ばぐらいで兄ちゃんが結婚して、最初は2年生の1学期の三者面談ではI高校って言よたけど、兄ちゃんに子どもができて、今その赤ちゃんは怪獣泣きしよるけど「ぐあー」って…。

T11：おまえやって泣いてきたよ。

## 7 NOさんより2、3年遅れるけど、先生になりたい

MI(女)うちんく壁薄いけん聞こえるもん…。ほんで（お兄ちゃんの）子どもが大きくなつて、小学校に行き出したらお金がいるけん兄ちゃんは何もできんって…。そうなつたら自分で働いてお金ためていかなあかんけん…。 NOさんとも話よったんよ。最初は先生なるんあきらめとつたんよ。なんでかって言うたら、NOさんとかは高校3年制のところに行って、大学の4年制に行って、22歳か23歳になつたら先生になれるけど、私は高校4年制に行って、それとまだ1年余分に働いてお金を貯めてから、大学に行くと思うよ。2年ぐらいい遅れると思うよ。だから今の1、2年生と同じになるのが恥ずかしいって思つとつたんよ。だけど考えてみたら、仕事はこれからもずっとしていくから、どうせだったら10年働くとして、その10年おもしろくないうところで働くのか、やりたいところで仕事をするのか、やっぱり自分のやりたいところで働きたいと思ったんよ。NOさんより2、3年遅れるけど、先生になりたい。

EN(女)先生、何か言いたいんちがうん？MIさんとか先生になりたいって言よるで。先生は自分になりたい職業めざして、高校、大学に行くっていうけど、私はないんよ。ごつついこまるんよ。 小学校のとき「なりたい職業」っていう文集があったんよ。みんな看護婦さんって書いとんよ。私は血を見るんがいやなんよ。そしたら思うことは警察官、婦警さんでもいいなあと思って、婦警さんって書いたんやけど、やっぱり現実を見よんよ。それで、5年の文集でみんな保母さん、保母さんって書いていて、何が子どもの相手しておもしろいんかと思った、うつとうしいだけと思ったけど、今思つたら小さい子どもの相手をして、お金をもらえるんつていいなあと思ったけど、やっぱり行きたいところがないんよ。先生になるとしても、勉強が嫌いだつたらできんだろう。勉強したらできるかもしだんけど、やっぱりなんか…、ピアノも弾けんし…。だからなりたいものがないけん。2年生の3学期なんか書いたで、用紙を渡されて、親の書くところと自分の書くところがあって、お父さんはいっぱい書いて忘れたけど、それをまねして書いたんよ、自分がなりたいものがないけん、ほんま。なりたいものはないんやけど、高校には行きたいんよ。困つとんよ。だけど勉強は一

応はしよるかもしれんのやけど、ないけん困つとんよ。話は変わるけど、はじめ3Eになって（教室が）遠いけん嫌だったんよ。一応、友だちはいるけど、そんなに仲がいい友だちはいないし、森口先生は学活が長いし、それ嫌だったんやけど、この頃、学校へ来る人が楽しいんよ。それと不思議なんは、さつき明るかつたけんかもしれんけど、泣かんと発表できとるでえ。いつも緊張してすぐ涙が出るのに、それが不思議なんよ。生活ノートを書くのは楽しいけど、「あゆみ」を書くのは2年のときから好きでないんよ。今、E組になって嫌なことは（教室が）遠いってことなんよ。だから、なんて言つたらいいかわからんけど、やっぱり行きたいところに合格できるかが不安です。

## 8 生命が終わる最後の最後まで学んでいる姿をみんなはどうのように感じる

T12：ちょっと先に言うとくけど、あと時間がないけど、言いたい人は、その発言を必ず保障するから安心して聞いてほしい。進路のことやけど、先生になりたいっていう人がいっぱいいたけど、みんなは知らないんよ。学校の先生以外の仕事についてあまり知らんのよ。他にもものすごく素敵なかたの中身があることを知らんのよ。例えば、今、保母さん、看護婦さん、警察官という仕事を出してくれたけど、みんなが知っている仕事というのは、世の中にある仕事のごく一部に過ぎない。まだまだ知らない世界の方が大きいと思う。だからこれからもっともっと知るんよ。知らなかつたら生きる世界が広がらない。どんな仕事も知つたらそこにしんどさがあるし、そこによろこびがある。そうだろう。いろんなこと知つたうえで、先生になりたい人は先生になって、その人生をより豊かなものにしていく。そうだろう。それだけ知つても、その仕事に対する幅は広がらんでしょう。例えばその仕事をするための勉強も、その仕事のためだけではないし、一つの仕事の中にいろんな要素があって、いろんな世界があるし、ここでみんな考えてみてほしい。勉強って何のためにする。仕事に就くためだけか。資格とるためだけか。もうあとわずかで生命が終わるという人が、最後の最後まで書物を読み、書き物をして学んでいる姿をみんなはどうのように感じる。勉強するってことは、いろんなことを知って、自分の中にあるものを熱く燃やしていく、今まで知らなかつたことに気づき、もっと知りたい、もっとわかりたい。そんなよろこびや感動を自らのものにしていく。わかることは楽しいだろ。ついこの間までできなかつた数学の問題がふつとできるようになった。この授業が始まるまでは、全然知らなかつたことを初めて知つた。ああ、こういうことだったんだ。もっと知りたいと思う。そんな思いの膨らみの中で、自分のあり方や生き方が段々と見えてくる。その結果として、先生になつたり、看護婦になつたり、いろんな仕事を選んでいくようになる。そういう1年間の学習をみんなで積み上げていくことができたらと思う。そうだろう。いろいろ感じて今思うこと、言いたいことがあつたら語ってください。（4人の生徒が挙手）4人でいいですか。全員発言っていうのは難しいけど、これからみんなが熱くなっていく授業していくけど、今日の授業は4人の発言で終わりたいと思います。

YM(男)僕の夢は寿司屋になることです。今この1年間で学びたいことは、根気強くなることです。寿司屋は何年もかかって一人前になる。修行している間、ずっとあきらめんことが大事やと思うんよ。ほんまなりたいんよ。交流っていうか、雰囲気が好きなんよ。にぎりながら話すのが…。ごつついなりたいんよ。一日一日がごつつい楽しかったって生活ノートに書けるような、そんな一日一日にしたいんよ。いっぱいみんなと語っていきたいし、なりたいことについて話していこう。おわり。

AK(男)やっぱり先生になりたいんよ。なんでかっていうたらな、ここでちょっとというたらブーイングが起きたかもしれないけど、僕は森口先生みたいな先生になりたいんよ。これマジで、ST君も言つたけど、どういう先生になりたいかっていうたらいいかわからんけど、先生みたいに部落問題を解決していくために講演とかにも行きたいし、まあ大きくなつたら先生と酒もいっしょに飲みたいし、おいしいところにも連れていってもらいたいし、いっぱい話したいし…。やっぱり学校の先生になりたいんは、その目的なんよ。あと詳しいことは決まってないんやけど、先生になつたら担任もつことになるで…。今は生徒の身やけど、今こつ

ちから見たら先生が一番ごっついって感じする。この間も言ってたで…。みんな子どもみたいって、こんだけおったら大変と思うけど。僕もな子ども好きやけん、先生になったら好かれる先生になりたいし、部落問題学習を通して自分もいいようになりたいし、生徒もえていきたいから、夢を捨てんと頑張っていきたい。

## 9 子どもが人並みはずれて好き、だから保母さん関係もいいなあと思う

Y0(女)私は初公開なんやけど、気に入ってる職業があるんよ。私は自分の家が建ってから4ヶ月ぐらいたつたんやけど、ウキウキ気分なんよ。昔の家はみんなが集まる場所がなかったんよ。それで孤立しとるって感じで、家族が会話するところがなくて、話す時間がなくて、食事とかバラバラで、今家のだったら家族全員いっしょで楽しくないけど、鍋とかいっしょにみんなで囲って食べができるんよ。家をつくるというか、夢をつくりたいんよ。それで私最近、家が新しくていいなあというんじゃなくて、その家で家族全員が話ができるっていうそういうゆとりの場をつくりたいと思ったんよ。それが一つとあと一つは、子どもが人並みはずれて好きなんよ。だから保母さん関係もいいなあと思いよんよ。今、気がついたんやけど、お母さん来るって言よったのに来てないんよ。なんかまだ寝ているような気がするんよ。進路の方（学年部会）は来るって言よったんやけど、授業が終わっても来てないんよ。時間忘れて10時ごろに来そうな気がして、今心配しよんよ。AK君の発表も聞いていたんだけど、ずっとお母さんの方（教室の入口）を見よんよ。Rちゃん（妹）の1Aの方に行ってるんかもしれんけど…。

T13：たぶん妹のほうに行っとるわ。

Y0(女)だけど絶対に来てよって言うたら、絶対行くって言よったけんな。今日、暇って言よったけんな、だけど来てないけんな腹たつとんよ。帰ったら怒ろうと思うんよ。

T14：帰ってからしっかり話しときいよ。

## 10 部落問題学習を子どもに語っていける先生になりたい

KH(男)僕もいろいろ職業あるけど、やっぱり先生になりたいんよ。二人なりたいっていう目標の先生がおるんよ。一人は森口先生で、もう一人は小学校5年の時の先生なんよ。森口先生の方はあまり言ったことないんよ。みんなだいたい森口先生は話が長いとか、恐いとか言うんで、言えんかったけどな。僕も森口先生のような先生になりたいんよ。部落問題学習とか子どもに語っていける先生になりたいし、どんどん生徒に言つていけるような、森口先生のような先生になりたいんよ。今年、森口先生のクラスになったで…。森口先生の今を聞いていきたいと思うんよ。もう一つこれは本音やけど、今日参観日で、親に参観日の通知を渡したんやけど、親が今日行けんって言われて、ちょっとほつとした気持ちがあって、今まで親と部落問題学習のことで話していきたいと思ってるけど、まだ一回も話してないんよ。兄貴とは話したことがあるよ。兄貴も母さんとは話せんかったって言よった。この頃、兄貴とは話が合うけど、兄貴は夜遅いけんなかなか会わんのよ。だけど会うとき兄貴と話して、家族で部落問題学習のこと話していきたい。

T15：お互いの中にある大事なものとしてきっちり受けとめて、ほんまの思いを語り合っていく授業、つながっていく授業を通して、共感して連帯して、みんなと出会ってよかったって言える集団をつくり続けていくこう。そして、おかしいことはおかしいと言える。間違ったことは間違ってると言える。本当にうれしいことは心から喜べ、勉強せえって言われて、詰め込まれてやるんじやなくて、自分から自分の夢に向かって自分の力で人生を切り拓いていくんです。そのためには仲間が必要です。絶対あきらめない、切らない、仲間の頑張りを本当に支え、その力をもらい頑張っていく、そんな関係をみんなで築いていくんです。また、クラスでの参観授業も、全体学習の参観授業もありますから、家の人と今日の授業の雰囲気や感動を話してください。みんなが本気で語ったら、家族の人たちも本気で話してくれる。そして、これからもみんなが生き生きと語っていく、思いっきり楽しい授業をつくっていこう。終わります。

### 3 生活ノートを綴ることの意味

参観授業における詩『峠』の道徳学習は、まさしく生徒一人一人の共感的つながりをつくる営みである。この学習の中で培われた共感が、それ以後の様々な教育活動の中に生かされていく、確かな教育活動につながっていくが、そのポイントは生活ノートである。そのことは参観授業の中でいつも語られていくが、その発言を検証しておきたいと考える。

掲載した参観授業の中で、まずY夫は、「中学3年になって勉強の大切さがものすごくわかってきて、頑張って勉強していったら、自由な自分の時間が増えるってわかつてき」たと語り、そんな自分を生活ノートの実践に重ねて、「まだ生活ノート出せてないんやけど、ちゃんとやっていけるようにしていきたい」と語っているが、それは他の生徒の生活ノートに寄せる思いを引き出し、その意味をクラス全体で検証していくようになる。

そのことをS夫は、「生活ノートを書いていなかったら、生活ノートを通して自分の生活を見つめることもできない。自分の生活を見つめて自分のことを知ることは大事なこと、勉強もするけど生活ノートも今までのように出していきたい」と語っている。

そんな生徒の主体的な語り合いの中で、生徒たちは、生活ノートの重要性について考え、その営みの大切さを語り、主体的に自問自答を繰り返す日常があつてこそ、自らの成長があることを自覚していくのである。

また、この参観授業によって、生活ノートの営みはより確かな教育実践につながっていく。それは決して強制されて持続するものではない。生徒の主体的な自問自答の中で初めて継続していく、その内容はより豊かなものになる。この生活ノートはそれぞれの生徒がそれぞれの大学ノートに自由に綴ってくるものであるが、この営みが定着していくと、生徒は大学ノート1頁をしっかりと綴るようになり、その営みは夏休みや冬休みも継続され、中には板野中学校を卒業した3月31日まで綴る生徒もいる。

ここでは、3月31日に綴られた中学3年生の生活ノートを紹介しておきたい。

【これが最後の生活ノートとなる。森口先生との出会いについて綴りたい。まず森口先生は、私に毎日「生活ノート」を書くように言った。しかも1日1頁という結構な量だ。

しかし私は、この生活ノートで今までの自分の考え方を大きく変えることができた。私は中2の頃、クラスのまとまりのない雰囲気が嫌で嫌で仕方がなかった。「自分はきちんとできているのに、周りが全然やってくれない」という被害妄想の意識で、いつもため息ばかりついていた。

でも3年になって、夜寝る前にこのノートを書くようになってからは変わった。ノートを1頁を埋めるんだから、やっぱり深く自分のことを考えなくてはならない。私は今まで何でも物事を決める癖があったのかもしれないが、自分をじっくり見つめる作業をすることで今まで見えなかつた自分の悪い所や友だちの良さをどんどん発見することができた。

また森口先生はいつも「昨日の自分より今日の自分が好き」という話をしてくれた。先生の話を聞いていると、私もそう思えるように努力してみようと思った。私は本当に自分に誇りと自信が持てるように、本当に自分のことが好きと言えるように、毎日を頑張ってみようとして、本当

に自分も変わったし、周りに対する考え方も変わった。周りを否定する前に、今自分にできることをやろうって思うようになった。そうすると受験勉強にも力が入り、クラスの問題にも積極的にいろんなことを考え、部落問題について実際に親と話ができるようになってきた。そして、そんな自分をまた生活ノートに綴るのが本当に楽しくもあった。

私は物事を前向きに捉えることによって、多くのことがうまくいったと思う。うまくいかなかつたとしても、そこで失望したりするんじやなく、もっと別の前向きな考えをするようになった。それは本当に単純なことだけど、本当に人間として強くなっていくことだと思う。そんなシンプルな事実を教えてくれたのが森口先生だ。

また語ることのすばらしさについて教えてくれたのも森口先生だった。私は今まで部落問題のことについて知ったかぶりをしていた。「自分は差別していないから関係ない」と思っていた。それに「自分と部落の人と立場が違うのに気持ちが分かり合えるはずがない」と思っていた。

だからこの問題に対して、どれだけ分かろうとしても、それ以上は分かることはないという意識が、ずっと私の中にあった。だけど3年E組になって、本気で語る森口先生とか、「この問題に命をかける」と言い切ったY夫君や、S夫君やN子さんとか、いろんな人の意見を聞いているうちに、私も今まで思ってきた自分の思いをみんなに言うようになった。そこから私自身のホントの部落問題学習が始まったように思う。

自分の本音を言うことによって、相手の本音を知るようになる。そんな当たり前のことが今までの私にはなかった。それって当たり前のことでも、やっぱり難しいことだと思う。

そんなふうにみんなと意見を交わし合う中で、私も自分にできることをやらなければって思うようになって、親とこの問題について話すようになった。すると今まで見えなかつた親の差別意識や、自分の考えの甘さなどがたくさん見えてきた。つい感情的になったこともあったが、一生懸命自分の思いを伝えていくことが分かり合えるための一番大切なことだと気づいたりもした。

クラスでも何度も何度も話し合い、時には口論になったこともあったが、あんなに深く物事を学んだクラスはそうないと思った。私も森口先生やいろんな友だちによって、今まで自分の中にはなかった新しいことをたくさん吸収することができた。そして、吸収したことを深く自分の中で考えることが大切であることに気づけた。

人ととのつながりの中で、いろんなことを学ぶこと、いっしょによくなつていけるって本当にすばらしいことだと思う。そこに自分を語ることのすばらしさがあるんだと思う。まあ、森口先生のことを書き始めると、いろいろあり過ぎてきりがないんだけど、本当にいろんなことを気づかせてくれた。中学3年という時期に学んだことをこれから的人生の礎として、しっかりと頑張っていきたいと思う。】

#### 4 自問自答を繰り返す日常を

保護者との関係を豊かなものにしていく4月の参観授業から、一人一人の生徒は同年代の仲間とじっくりと自分をみつめ、自分を支えている家族の存在を主体的に認識するようになる。表面的には突っ張ったように見える中学生であるが、その内面は繊細であり、思いやりの心に溢れていることに気づいていくが、そのことを実感させてくれるS夫の発言である。

「僕は親からあんまり勉強せえって言われたことがない。テストで悪い点をとっても怒られんけど、先生が子どもは親の期待を裏切るんが仕事じゃって言われたとき、やっぱり僕の親って僕が遊びほうけとるのを見てごつついつらいと思うけど、声に出して言わんというか、僕が気づくまで待ってくれとった。今になって気づくんって遅いと思うけど、今まで親が我慢してくれたぶん、頑張らなあかんと思う。」

そして、S夫は次のように家族に寄せる思いを締め括っている。

「僕も今まで親の期待を裏切り続けてきた。だから、親がいい方に思いを寄せててくれているのをわかってるのに、それを行動に移せんかった自分がいた。進路希望調査とかでも、親は本人の意志に任せますとか、本人したいですか書くんやけど、僕は始めにそれ書かれたとき、ごつついシヨックだった、見捨てられるとと思った。だけど、勉強していくうちにこれが本当の親の優しさとわかった。親からしたら、こういう職業についてほしいというのがある。だけど、みんなの親もそうと思うけど、僕の親は僕の夢を尊重してくれたっていうか、自分にしてほしい職業とか僕に言ったことないし、僕に好きなことせえって言ってくれるし、本当にそう書いてくれたってわかつたら、ほんまの優しさだとわかったけど、それは親が子に対する最大の厳しさだとわかった。親が子に勉強しろって言うのは、精神的につらいと思うけど、それは優しさと思う。僕の親だけではないけど、本人に任せるっていうか、本人が本当に自分の夢に気づいて頑張るって言うまで、僕の親の場合待つつとてくれた。3年になって遅いけど、やっと親の思いに気づけた。だから勉強もし始めた。」

家族の思いをしっかりと担ぐことができたとき、一人一人の生徒は私たち教師の想像を超える成長を見せる。このS夫は、それ以後の中学校生活を驚くほど豊かなものにしていくが、そんなS夫の頑張りや彼の感性の豊かさを象徴する生活ノートがある。それは中学3年の2学期後半に綴られたものである。

【板野中学校は自分を驚くほど成長させてくれた。成長する前の自分は何の目的もなく、ただそのとき思ったことを言って満足しているだけの生活を送っていた。勿論そんな生活に歯ごたえがあるはずがない。まるで自分が風船の中でいるような気分であった。言い換えれば内容のない一日一日だった。全体学習でもそのときの感情でしか発表できず、それを自分の中でどう結びつけていくかということを考えるまでには至っていなかった。】

僕は1年、2年の頃は授業中騒がしくしたりして先生によく注意されていたのに、今では「授業を大切にしよう」と呼びかけている。勿論それは偽りではなく、本当にそう思っている。何が自分をここまで変えたのか。なぜ自分は変わったのか。考えてもわからない。だが僕はまだ良くなった自分になれない。表彰されるときに僕の名前が呼ばれても、その声が脳まで伝わり理解す

るのに若干時間がかかる。授業中に友だちから「ここ、教えて」と頼まれるときでも、昔の自分を思い出すと、軽いめまいを覚えることがしばしばある。

だが最近やっとわかったことがある。それは僕がこんなに成長できたのは全体学習があったからだ。全体学習でいつも自分を問い合わせ、それに自分なりの答えを出す。一言で言えば自問自答である。そういうことを続けていく中で自分の姿を見つめ、人間としてどんな生き方をするのかを考える。それが僕を変えていった。今の自分は誇らしいのか、今の自分は輝いているのか、人間として本当の仲間をつくっていくことができる人間になっているのか。そんなことを考えながら今までの中学生3年の一 日一日があった。そして、その節目節目に全体学習があり、僕はその中で強烈に自問自答を繰り返してきた。

もう一つ、全体学習を通して、僕は知識の必要性を学んできた。やはり様々な知識を知っておかなければ、差別とは闘えない。わかりやすく言えば、「差別はいけない」ということを理解していくも、何が差別なのかということを理解しておかなければ、差別をしてしまい、また差別をされてしまうということである。無知な人間が差別をするとよく先生が話してくれるが、全くその通りだ。

僕のまわりにも強烈な差別意識を持った人がいる。しかし、ここでしっかりと自覚していかなければならないのだが、憎むのはその人間ではなくその差別意識である。ただその人間を非難するだけでは何も生まれてはこない。どうしてそんな意識を持っているのか、どうしてそんな意識を持たされてしまったのか。そういうことをお互いで考えることによって共感し合い、仲間としてつながれる。「あいつはいかん」と声にこそ出さないが、心の中でそう思っていて、その人間を切り離してしまう。それでは仲間はできない。だからこそ身近な仲間と素直に心を通わして、つながっていくことが毎日の生活の中でできていかなければ、部落差別をなくしていく力はわいてこないし、全体学習も機能しなくなる。全体学習も毎日の友だちとの関わりや生活を点検すること、自問自答を繰り返すことによって確かなものになってきたと思う。】

S夫は全体学習に寄せて、その思いを綴っているが、この生活ノートの象徴されるS夫の変容の根底に、学級開きを確かなものにし、生徒一人一人をつないでいった参観授業があることを強調しておきたい。



1998年度板野中学校2年A組（教育実習生・圓藤志乃を囲んで）